

リレーエッセイ

海外派遣
専門家たよりきよとりのこ
清登典子

筑波大学大学院人文社会科学部研究科教授

←毎回の講義では、学生
たちが日本語による感想
文を一生懸命書いて提出
してくれた
✓講義の受講生たち。毎
回40人ほどが出席した
写真提供：筆者（以下も同じ）

『古事記』から 「宮崎駿アニメ」 まで

スロベニアで
「日本文学と自然」を教える

に在籍する大学生たち（主として3年生と4年生）に日本文学を教えることとなったのである。

当初

は、私が専門としていた俳諧文学、とくに季語に見られる日本の美意識などについての講義を行なおうと考えていたが、現在海外で日本語を学んでいる学生たちが最も興味を抱いているのはアニメーションに代表されるような日本の現代文化であるということ。これを伝え聞き、単なる古典文学の講義を行なうだけでは意味がないと考えるようになった。

そこで、現在の日本文化の基礎を理解することにつながるような古典文学をも含めた日本文学の講義として、『古事記』『万葉集』といった上代の日本文学から、『古今集』『更級日記』『山家集』『方丈記』『好色一代男』『奥の細道』『草枕』『暗夜行路』といった中古、中世、近世、近代の時代の代表的な文学作品や茶道、能楽といった芸能を取り上げて、そこに見られる自然とのかかわり方や捉え方を

検討していき、最後に宮崎駿のアニメとして『となりのトトロ』『もののけ姫』『千と千尋の神隠し』などを取り上げて、現代文化に見られる自然観にも検討を加えるという、かなり欲張った内容の講義案を立ててみた。

各回の講義では、ビデオ教材やDVD資料を積極的に用いることで、学生の理解を深める一助とすることとした。さらに、日本の高校生たちが国語・古典の授業時に用いている副教材を、講義のたびごとに配布し、2人に1冊ずつ机の上

に置いてもらい、講義内容にあわせて年表や地図類を参照してもらうことにした。これも内容の理解を助けることをねらったものである。

さて、私がリュブリャーナに到着した3月のはじめには、ヨーロッパを記録

的な寒波が襲っており、観光地として有名なブレッド湖も氷結し、リュブリャーナ市内も家々の屋根に雪が降り積もっていた。講義開始の日は昼間の気温がマイナス15度という寒さであったが、学生たちはそんななかでも講義室がいっぱいになるくらい集まり、熱心に耳を傾けてくれた。講義では、まずその回で取り上げる時代につき、講師のほう

スロベニアのリュブリャーナ市中心にある「竜の橋（Zmajski most）」欄干の竜の像。竜は同市のシンボルで、数世紀前から市の紋章にも使われている



